

長浜市図書館基本計画実施プラン
平成30年度評価書

令和元年9月

市民協働部生涯学習文化課
長浜市立図書館

はじめに

長浜市立図書館は、平成27年3月策定の「長浜市図書館基本計画」に基づき具体的な取組みを計画的に進め、図書館運営の基本とするため、平成27年度から5年を期間とする実施プランを作成しました。

図書館法第7条の3の規定に基づき評価を実施するために、年度ごとの運営状況について、自己評価および図書館協議会への意見聴取をおこない、その結果を公表します。

なお、第3章については、中央図書館を要とした新体制の構築に関する項目ですが、新長浜図書館を含む産業文化交流拠点は現在建設中であり、実際の稼働はこれからであるため、その進捗状況により具体的な取組みがあった場合に評価をおこないます。

各取組みの達成状況について、自己評価がDであった取組みについては、その原因を分析し、次年度の取組みに生かします。

令和元年9月 長浜市立図書館

◆評価 基準

A：計画以上の取組みをおこない、目標を大幅に超える成果があった

B：おおむね計画に沿って実施し、課題はあるが、目標が達成できた

C：実施したが課題が多い

D：ほとんど実施できなかった

※各年度の取組み内容の年度工程が達成できたかどうかにより評価する

◆年度別工程表の見方

「検討」：実施の是非を含め、方法等を検討すること

「準備」：実施に向けた具体的な準備をおこなうこと

「実施」：一定の方向性を定める、立案する、または実際におこなうこと

平成30年度の図書館評価を終えて

長浜市立図書館の年度評価は、図書館職員による内部評価と、それを参考資料として図書館協議会が担う外部評価を合わせたものとして公表する方式を定着させて4年目になる。

本年度の図書館協議会は待望の新長浜図書館の開館を間近に控え、新たな図書館組織のもとに展開される第2期図書館基本計画の策定に着手する段階にあり、今回はその作業と並行しての外部評価を行うことになった。作業は前年度と同様に協議会の中に小委員会を設け、そこで図書館職員からの説明も得つつ、丁寧な検討をしていただき、その結果を全体会議で審議し、確認することとした。多忙の中、小委員を務めていただいた委員各位には非常なご苦勞をおかけしたことに謝意を表す。

今回の外部評価では、新長浜図書館の開設と新たな体制での活動に向けて、職場が協力して実施プランにそっての業務の見直しと計画的な準備と課題整理に力を尽くしていることが高く評価され、A、Bと判定された項目が前年度より増えている。そのなかでCと判定した事項として、来館が困難な人へのサービス、北部地域における活動、博物館・歴史資料館等との連携がある。しょうがいを持った人々や高齢者、在住外国人などへのサービスがそれなりに努力されているが、けが等で長期に療養している人、妊婦など一時的に来館が困難になっている人へのきめ細かな対応となると、現実には困難な要素もあろう。遠隔地である北部地域へのサービスと資料館等と連携した長浜の歴史や文化の保存・交流・伝搬に係る活動は、新長浜図書館の存在を強くアピールする上でも重要な課題であり、さらに踏み込んだ試行を期待したい。

新長浜図書館への期待として、最も重要なのは新鮮で魅力ある蔵書の構築と、将来に向けた地域資料のデジタル化を含めた運用と保存である。新館用図書としてYA資料と参考図書の新規購入に一定の成果はあったが、大型の新館開設にみあう開架の魅力を高めるには決して十分ではない。この後の継続した措置を求めたい。この年度に更新したコンピュータシステムが資料の電子化、ウェブ公開に課題を残すことになったのは遺憾であり、適切な対応を探ってほしい。

第1期の基本計画の策定とそれに基づく評価項目、数値目標の下でこの4年間、図書館評価を行ってきたが、その中で評価項目自体の一部見直し、目標の妥当性がときに話題に上ってきた。図書館協議会として本年度、第2期基本計画の検討を進めるに際して、そのことにも注意を払う必要があると考えている。

図書館評価は、図書館法第7条の3の規定に基づき、各図書館に求められるものである。新長浜図書館が開館すると、これまでとは大きく異なる新たな図書館組織による図書館活動が展開されることになるはずであり、当然その中に今回及びこれまでの図書館評価の成果が活かされることが重要である。図書館評価は評価そのものに目的があるのではなく、その内容が次なるステップの糧として活かされるべきは当然である。

今回の結果はとりわけ、長浜市立図書館にとって大きな転機となる時期の評価として、図書館職員全体、市の関係部門によって共有され、広く市民にも理解と支持を得て、本市図書館事業の今後の進展に有効に活用されることを切望する。

長浜市図書館協議会
会長 塩見 昇

1. 市民のための図書館サービス

番号	①	資料の充実	年度工程
取組み内容	1	全館の蔵書構成を把握しながら、年度ごとの購入計画を作成し、それに沿って選書をおこないます。	実施
	2	全館で季節や時事にちなんだ本を集めたピックアップコーナーを設置し、定期的に入れ替えます。	実施
	3	館内の案内を工夫する等、見やすく探しやすい棚づくりをします。	実施
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 資料購入計画を立て、各館の予算配分を決め、各館の重点資料等を購入しました。児童書・実用書・小説などの複本購入をすすめ、円滑にリクエスト対応できるようにしました。 ピックアップコーナーの設置や季節にちなんだ本の入れ替えなど、利用者の興味関心を惹くような工夫をしました。 		自己評価 B
課題	<ul style="list-style-type: none"> ピックアップコーナーのテーマがマンネリ化しがちなため、テーマの設定に工夫が必要です。 各館で資料の整理をおこなったことで館内サインと合っていない場合があるので、全体の見直しが必要です。 		

番号	②	レファレンス機能の強化	年度工程
取組み内容	4	レファレンスを広く知ってもらい、利用しやすくなるような環境を整えます。	実施
	5	レファレンスの回答事例収集数を年5%以上向上させます。	実施
	6	収集したレファレンス事例は、図書館ホームページ等で一般公開します。	実施
	7	入手困難な資料は、県内外の公共図書館・大学図書館・各種図書館との相互貸借を積極的に利用して提供します。	実施
	8	職員は外部の専門的な研修を受講し、全職員を対象におこなう内部研修も積極的におこないます。	実施
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> サービスを紹介するポスターとチラシを作成し、カウンター周辺に設置しました。 回答事例の収集数は丁寧に収集することを全職員に徹底した結果、昨年の146件に対し246件と大幅にアップしました。 滋賀県立図書館から講師を迎え、全職員対象にレファレンスの研修をおこないました。(10月) 		自己評価 B
課題	<ul style="list-style-type: none"> 事例を公開するにあたっては、テーマや調査内容を十分に精査し整理する必要があります。 中央図書館体制に移行し、システムの更新を予定していることから、レファレンス処理の流れと回答事例収集の方法を見直しする必要があります。 		

番号	③	館内事業等の充実	年度工程
取組み内容	9	市民の幅広い知的好奇心を喚起するような講座や展示を年間3回以上企画し、実施します。	実施
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 知の講座を2回開催しました。(①災害に備える10人②しめ縄飾りでお正月を迎えよう18人) 各講座の申込受付期間にあわせて関連資料の展示をおこない、開催を周知しました。 企画展示を2回おこないました。(曳山まつり(長浜・4月)・「平成」を振り返る展(浅井・2月) 		自己評価 B
課題	<ul style="list-style-type: none"> 今後も市民のニーズに沿ったテーマで設定する必要があります。 台風接近で安全確保のために中止になった講座があり、開催時期も考慮が必要です。 市民生活や時事の関心の高い事柄に沿って、もっと図書館資料を活用できる企画力が必要です。 		

番号	④	電子化資料への対応	年度工程
取組み内容	10	地域資料を電子化しデジタルアーカイブとして保存し図書館ホームページ等で公開します。	実施
	11	電子化資料の収集・貸出方法や提供方法を検討します。	検討
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に引き続き、地域資料のデータ整備をすすめました。 		自己評価 C
課題	<ul style="list-style-type: none"> 図書館コンピュータシステムの更新により資料の電子化・ウェブ公開が困難な状況となりました。代替となる方法について新たに検討が必要です。(No.65と同じ) 		

1-1に対する図書館協議会からの意見		
①資料の充実	A	ピックアップコーナーはこまめに展示替えするなど、よく工夫して取り組んでいる。
②レファレンス機能の強化	B	情報公開のためには回答や資料の精査が必要だが、まずはやってみることも大事ではないか。
③館内事業等の充実	A	知の講座は図書館だけでなく市のHPにも掲載され、市民に定着もしてきている。
④電子化資料への対応	C	せっかく新長浜図書館もできるのにシステムを使用する期間、蓄積した情報の活用、新しい情報の作成ができないことは大きな課題である。予算のこともあがるが、別の手立てがないか検討してほしい。

2. だれもが利用できる図書館をめざします

番号	①	来館が困難な人へのサービス	年度工程
取組み内容	12	公民館図書室や学校図書館との連携によるサービスポイントの増設や移動図書館車の導入を検討します。	検討
	13	高齢や療養、産前産後などの理由により図書館に来ることのできない人が利用できる、貸出・返却の仕組みを作ります。	実施
今年度取組み状況	12: 検討し、課題の洗い出しをしました。 13: 貸出・返却の仕組みの実施に向けて課題を整理することができました。		自己評価 C
課題	13: 対象者と費用負担等について具体的な検討が必要です。		

番号	②	しょうがい者へのサービス	年度工程
取組み内容	14	音訳ボランティア養成講座を主催し、講座受講後は定期的にスキルアップの機会を設けます。	実施
	15	だれもがわかりやすいピクトサインを計画し、設置します。	実施
	16	音訳や筆談、同行援助(視覚しょうがい者の安全確保と情報提供)ができる体制を整えます。	実施
	17	しょうがい者等に対し、年間100点以上、郵送貸出をおこないます。	実施
	18	関係機関のサービスを利用することで、視覚しょうがい者へ提供できる資料の数や質を向上させます。	実施
	19	図書館のしょうがい者サービスを周知するため、パンフレットを作成し、関係各課や団体などに配布します。	実施
今年度取組み状況	音訳ボランティア養成講座の受講者が視覚しょうがい者へ実際に情報提供できるよう、活動の機会を定期的につくりました。パンフレットは作成できませんでしたが、関係課との連携によって、郵送貸出の新規申込がありました。		自己評価 B
課題	講座を受講し意欲を持ったボランティアが自立的に活動し、しょうがい者の要求に応えるために、職員がコーディネートできる体制を整備する必要があります。		

番号	③	子育て世代へのサービス	年度工程
取組み内容	20	はぐはぐおはなし会・木製おもちゃの貸出し・育児書や子育て情報の提供をします。	実施
	21	子育て世代が使いやすいように設備やスペースを工夫し整えます。	準備
	22	ブックスタートボランティアの養成講座を毎年開催し、年に3人以上増やします。	実施
	23	子育て支援施設と連携した事業をおこないます。	実施
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市の子育て支援アプリやメールなどを使い、サービスの情報提供をおこないました。 ・本を入れるかごを載せることができるベビーカートを、全館に配置しました。 ・ブックスタートボランティア養成講座をおこない、2人が受講しボランティア登録をされました。 ・ながはままるごと子育て応援フェスタ(主催:子育て支援課・11/16)でえほんのひろばを開催しました。 		自己評価 A
課題	ブックスタートボランティアが継続して活動できるように、職員のきめ細かいバックアップやフォローが必要です。		

番号	④	高齢者へのサービス	年度工程
取組み内容	24	高齢者向けの資料を充実させるために、大活字本を年に50冊以上増やします。	実施
	25	社会参加やボランティア等、新たな活動のきっかけとなるような講座を年1回以上開催します。	実施
	26	高齢者施設における貸出の仕組みを作り、貸出しを促進するために周知します。	実施
今年度取組み状況	24: 大活字本を75冊増やしました。 25: 取組み内容No.9で、高齢者も参加できる講座を開催しました(2回)。 26: 高齢者施設から、団体貸出の新規登録が2件ありました。		自己評価 A
課題	高齢者の特性について職員が理解を深め、高齢社会における図書館サービスとして支援する人にも役立つ資料提供ができるような体制を整える必要があります。		

番号	⑤	外国語を母語とする人へのサービス	年度工程
取組み内容	27	外国語資料の収集・提供を進めます。特にポルトガル語・スペイン語資料をそれぞれ年に10冊以上収集します。	実施
今年度取組み状況	国際交流の担当部署の協力を得て選書した20冊を蔵書に加えました。また、外国人が多く参加するイベントで図書館をPRするブースを設けました。		自己評価 A
課題	国際交流の各担当部署と連携しながら、資料の貸出利用以外の図書館サービス(インターネットの利用・情報を得ることができる場としての利用等)も周知し、新たな利用につなげていく必要があります。		

1-2に対する図書館協議会からの意見		
①来館が困難な人へのサービス	C	例えば高齢者施設に定期的に出向いて本の貸出しを行ったり、学校図書館を地域の人たちも利用できる方法を検討するなど、できそうなことから取り組んではどうか。また、費用面などの課題はあるが、移動図書館の巡回については、今後の図書館サービス全体にかかわる大きな課題であることから今後も実現に向けて検討を続けてほしい。
②しょうがい者へのサービス	A	着実に課題を整理して進めている。
③子育て世代へのサービス	A	まんべんなく様々な取組みができています。
④高齢者へのサービス	A	利用案内を紙でもらうより、司書に直接勤めてもらおうと利用する側としては安心して利用できる。高齢者の特性について職員がさらに理解を深めてほしい。
⑤外国語を母語とする人へのサービス	B	外国語を母語とする地域住民の状況を把握し、多様な言語をまんべんなく収集するのではなく、言語によって重点的な収集をすすめるなどの取組みが必要である。

3. 子どもが本と親しめる図書館をめざします。

番号	①	子どもの読書活動の推進	年度工程
取組み内容	28	「長浜市子ども読書活動推進計画」(第2次)に基づく「けやきっ子プロジェクト」を関係課の中心となって進め、第3次計画へつなげます。	実施
今年度取組み状況		<ul style="list-style-type: none"> ・けやきっ子読書カードにレアカードを導入しました。あわせて北部の3図書室でもカードを発行できる体制を整えました。 ・おはなし会や「体験！子ども図書館員」など、子どもが図書館と本に親しむ取組みをおこないました。 ・湖北地区高校が作成したおすすめ本リストの展示を、米原市立図書館・彦根市立図書館とも連携して3市立図書館同時に開催しました。 ・文教短期大学との共催でPOP・本の帯コンクールをおこない、受賞作品の展示をおこないました(長浜・浅井) 	自己評価 A
課題		図書館の利用率の低いYA世代に効果的なPRをするため、高校や大学との結びつきをより強化する必要があります。	

番号	②	学校図書館との連携	年度工程
取組み内容	29	学校図書館の蔵書管理や書架の配置について学校及び学校司書の相談に応じます。	実施
	30	学校司書との連絡会を通じて、学校図書館の運営への支援や資料・情報の提供をおこないます。	実施
	31	学校連携が可能となる拡張性を持った図書館コンピュータシステムを採用し、体制を整備しながら学校図書館への支援を進めます。	実施
	32	図書館と学校間の資料配送システムのネットワーク化について検討します。	実施
	33	図書館見学を積極的に受け入れるためメニューを作成し、学校図書館連絡会を通じて情報提供をおこないます。	実施
今年度取組み状況		<ul style="list-style-type: none"> ・年間をつうじて定期的に市教育委員会・司書教諭・学校司書と情報共有や意見交換をおこないました。(学校図書館連絡会2回。学校司書連絡協議会6回参加。学校司書の研修会3回参加) ・学校連携が可能となる拡張性をもった図書館コンピュータシステムを採用しました。(令和元年度稼働) ・学級巡回文庫の巡回体制について、業者委託をおこないました。 	自己評価 A
課題		学校司書が全校配置されたことにより、図書館と学校の連携について内容を見直す必要があります。	

番号	③	園との連携	年度工程
取組み内容	34	園の絵本の活用が進むよう、書架の配置や絵本の並べ方等の助言をおこないます。	実施
	35	市内全園に、来館による絵本の貸出しやおはなし会の受入れを毎年お知らせし、利用を促します。	実施
今年度取組み状況		<ul style="list-style-type: none"> ・園への団体貸出を101回おこないました。 ・園への団体貸出サービスの方法を整え、令和元年度から実施する準備ができました。 	自己評価 B
課題		園や保育者が必要としているサービスを把握し、よりニーズに即した連携をおこなう必要があります。	

番号	④	子どもと本をつなぐ大人への支援	年度工程
取組み内容	36	子どもの読書への理解と関心を深めるため、保護者やボランティアを対象に、年1回以上講演会等をおこないます。	実施
	37	園や学校で図書整理などをおこなうボランティアのスキルアップにつながる講座を開催します。	実施
	38	担当課と協力し、子どもの読書への理解と関心を深めるための教師・保育者向けの研修会等を年に1回以上開催します。	実施
	39	教師や保育者の教育活動や教材研究に役立つ資料を計画的に購入し、情報を提供します。	実施
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせボランティア実践講座を開催しました(2/26・27人参加) ・市教育センターと協力し教師・保育者向けの研修を開催しました(10/26・約30人参加) ・学校からの依頼に対応できる資料を積極的に購入しました。 		自己評価 A
課題	教育活動や教材研究に役立つ資料の情報を効果的に提供し、それぞれの具体的な取組みにつなげていくことが必要です。		

1-3に対する図書館協議会からの意見		
①子どもの読書活動の推進	A	対象である0歳～18歳まで、まんべんなく様々な取組みができています。
②学校図書館との連携	A	学校図書館の現状を把握し、現状に沿った取組みができています。
③園との連携	B	図書館に多く来館して知ってもらえるようさらに工夫をしてほしい。特に園長に図書館サービスを知ってもらうのはよい。
④子どもと本をつなぐ大人への支援	A	まんべんなく取組みができています。

4. まちの魅力を発信し、地域の文化的な拠点となる図書館をめざします

番号	①	地域資料や行政資料の収集	年度工程
取組み内容	40	行政資料の収集を市行政職員に周知し、ファイリングやデータの整理を進めます。	実施
	41	地域資料を市民に呼びかけ収集するとともに、データの整理を進めます。	実施
	42	地域資料の活用や継承する方法について、専門家や関係機関とともに検討する体制を整えます。	実施
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資料のデータ整備(書誌割れ、正確な入力、再分類、長浜図書館への移管)を進めました。 ・貴重な地域資料を市民から寄贈していただきました。 		自己評価 B
課題	行政掲示板や図書館ホームページを活用して、さらに市役所や市民から行政資料や地域資料の提供を依頼します。		

番号	②	市の情報の提供	年度工程
取組み内容	43	地域活動や子育て、暮らしに役立つ情報を収集・整理し、活用できる体制を整えます。	実施
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域情報や子育てに関する情報コーナーを各館に継続的に設置しています。 ・子育て情報アプリ「ながまるキッズ！」(子育て支援課)から情報発信を開始しました。 		自己評価 B
課題	中央図書館体制を見据え、総合的に発行物を収集・整理・管理する方法を構築します。		

番号	③	博物館や資料館との連携	年度工程
取組み内容	44	地域の歴史や民俗に関する専門的なレファレンスに対応するため、博物館や資料館との連携協力体制を整備します。	実施
	45	博物館との連携を進めるため、共催行事や展示の開催を年に1回以上おこないます。	実施
	46	歴史資料を博物館等と連携して保存・活用・提供できる体制を整備します。	検討
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・長浜城歴史博物館と共催で「H-1グランプリ2018(自由研究コンクール)」をおこないました。作品募集時期に図書館で、参考図書や昨年度優秀作品の展示と自由研究相談室をおこないました。 ・今年度の優秀作品展示を図書館でおこないました。 		自己評価 B
課題	専門的なレファレンスに迅速に対応できるよう、図書館には市内の博物館や資料館の施設の一覧を、博物館や資料館には図書館一覧を常備するなど、連携をとりやすい環境をつくる必要があります。		

番号	④	活動発表の場の提供	年度工程
取組み内容	47	施設を利用した作品展示や活動の発表の場としての利用を促進するため、市広報や図書館ホームページで参加・応募を呼びかけます。また、展示や発表の成果を図書館ホームページ等で公開します。	実施
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展示や活動発表の場としての施設利用はありましたが、新たな呼びかけが出来ませんでした。 ・自治体を対象としたSNSの活用に関する研修会に参加しました。 		自己評価 C
課題	SNSによる情報公開時の留意点、各メディアの特性などを精査し、継続性の高い情報提供の仕組みを整備する必要があります。		

1-4に対する図書館協議会からの意見			
①地域資料や行政資料の収集	B	収集が大変だとは思いますが、合併以前の旧町の資料も網羅し収集した資料は、新長浜図書館で生かすこと。	
②市の情報の提供	B	資料を維持していくのは大変なため、具体的な計画が必要だろう。情報をどう提供し、管理・活用していくのか。ワンストップサービスの具体案が必要ではないか。	
③博物館や資料館との連携	C	できることから少しずつというのは大事だが、めざす連携の形が見えてこない。もっと博物館等と意見交換して市の観光行政の視点と調整が必要ではないか。	
④活動発表の場の提供	C	展示や発表の成果の公開や告知で、HPやSNSの活用ができるようになるとよい。ただコンテンツを作るだけでなく、積極的な更新が必要。	

5. 市民とともに作る図書館をめざします

番号	①	市民との協働の推進	年度工程
取組み内容	48	市民の図書館運営への参画を促進するため、市民との協働による事業を年1回以上開催します。	実施
今年度取組み状況		ブックスタート・音訳サービス・おはなし会を、市民ボランティアと協働でおこないました。	自己評価 A
課題		目的を共有しよりよい事業をおこなうために、市民ボランティアと交流を深め、相互理解を図りながら、活動のコーディネートやサポートを続けることが必要です。	

番号	②	ボランティア活動の推進	年度工程
取組み内容	49	図書館や読書に関するボランティアの交流会を年1回以上開き、情報交換できる場を設け、市民活動を広げます。	実施
取組み内容	50	図書館を拠点として活動するボランティアに、通信を年6回程度発行し、ボランティアが図書館で活動するために必要な情報を提供します。	実施
今年度取組み状況		・読み聞かせボランティアの交流会を開催しました(2/26・17人参加) ・ボランティア通信を年6回発送し、活動を呼びかけました。(のべ793人参加)	自己評価 A
課題		ボランティアが活動を継続できるように、今後も図書館のきめ細かいサポートの継続が必要です。	

番号	③	図書館協議会等の活用	年度工程
取組み内容	51	図書館のサービスを検証し、意見を求めてサービスの向上につなげるため、図書館協議会を年2回以上開催します。	実施
取組み内容	52	講演会や講座の開催時には、毎回アンケートを実施し、市民の声を企画に生かします。	実施
今年度取組み状況		51: 図書館協議会を8回開催しました。また、「中央図書館・北館・サテライトの効果的かつ効率的なあり方について」諮問し答申を得ました。 52: アンケートは必要に応じておこないました。昨年度のアンケート結果を活かした講座等を開催することができました。	自己評価 A
課題		52: 図書館来館者だけでなく、来館しない・できない市民の声も集めて、サービスに生かすことが必要です。	

1-5に対する図書館協議会からの意見		
①市民との協働の推進	A	策定当時は図書館まつり等を想定していた。5年経過しめざすものも変わってきたので、目標と成果の内容を合致させること。
②ボランティア活動の推進	A	新長浜図書館で社会福祉協議会のボランティアセンター等と協力できるとよい。
③図書館協議会等の活用	A	52については、来館しない・していない市民の声も聞けるとよい。

I. 図書館機能充実のための施設整備

1. 均衡あるサービス提供のための新しい体制

番号	①	6図書館の体制整備	年度工程
取組み内容	53	中央図書館・北図書館・サテライトの体制への移行に必要な条例改正をおこないます。	実施
今年度取組み状況		令和元年6月議会上程に向けて改正素案を作成しました。	自己評価 B
課題		併せて図書館管理規則の改正についても検討し、周知方法やタイミングも含めて細部に至るまでの検討が必要です。	

番号	②	北部地域へのサービス拡充	年度工程
取組み内容	54	木之本・余呉・西浅井サテライトに図書館司書が勤務する日数・時間を決めます。それ以外の日・時間帯の運営体制については、現行の管理者と協議をおこない決定します。	実施
	55	木之本・余呉・西浅井サテライトでおはなし会を開催したり、読書案内やレファレンスに応じたりするための体制を整備します。	検討
	56	北図書館が北部サテライトの資料配送や運営を支援するための体制を整備します。	実施
今年度取組み状況		・新館開館後の司書の支援体制について、関係部署と意見交換をおこないました。 ・西浅井まちづくりセンターの乳幼児サロンで「えほんのひろば」を共催し、参加者に図書室の利用案内をしました。 ・3図書室でも蔵書点検をおこない、資料の所在確認をしました。	自己評価 B
課題		管理者が異なるため、図書館と足並みをそろえた休館日や開館時間に変更することが難しく、長期的な視点で協議をしていく必要があります。	

番号	③	中央図書館の役割	年度工程
取組み内容	57	中央図書館に庶務や企画部門を集中するため、事務分掌と職員配置を見直します。	実施
今年度取組み状況		・図書館協議会に「中央図書館・北館・サテライトの効果的かつ効率的な運営について」諮問し答申を得ました。 ・実際に中央図書館の稼動を想定して職員配置計画を内部協議しました。また休館日や開館時間の変更に合わせたシミュレーションをおこないました。	自己評価 B
課題		長浜図書館を中央図書館化して担う役割をさらに明確にし、体制を整える必要があります。	

番号	④	地域館の役割	年度工程
取組み内容	58	地域館の庶務や企画部門は、中央図書館へ集約するため、事務分掌と職員配置を見直します。	実施
	59	地域館を活動拠点とする団体・ボランティアの活動を支援するための体制を整備します。	準備
	60	サテライトは、児童向けの資料や日常的・実用的な資料を中心とした蔵書構成となるよう、計画的に購入や移管を進めます。	実施
	61	サテライトは、地域の人々が気軽に集い談話できる場として整備します。	準備
今年度取組み状況		・図書館協議会に「中央図書館・北館・サテライトの効果的かつ効率的な運営について」諮問し答申を得ました。 60: 児童書や実用書の複本購入をすすめ、中央図書館への移管資料の選別を進めました。	自己評価 B
課題		長浜図書館の中央図書館化に伴って、地域館の担う役割を明確化し、体制を整える必要があります。	

番号	⑤	施設の有効活用	年度工程
取組み内容	62	サテライトは、他の教育施設・機関との複合化や小学校・中学校の学校図書館と複合した地域開放型の学校図書館とする方向についても検討します。	検討
今年度取組み状況	(今後、関係課等と調整しながら進める予定)		自己評価
課題	図書館とともに配置することによって住民サービスがより効果的で効率的であるような機能と複合できないか、検討が必要です。		

2-I-1に対する図書館協議会からの意見		
①6図書館の体制整備	B	計画に従って進められている。
②北部地域へのサービス拡充	C	一番大事な管理運営の協議が出来なかったのが残念である。また、北部の地元のボランティアにも活躍してもらえるような場があるとよい。
③中央図書館の役割	B	計画に従って進められている。
④地域館の役割	B	計画に従って進められている。
⑤施設の有効活用	※	十分な検討をするように。

2. 中央図書館に求められる機能と役割

番号	①	市民が交流し活動を広げる機能	年度工程
取組み内容	63	地域で活動する人やグループが活動の成果を発表できるスペースを中央図書館に設けます。	検討
	64	各地域で活動する市民同士が交流できる場を中央図書館が提供し、活動をサポートします。	検討
今年度取組み状況	さざなみタウンの利用予定団体が集まった意見・情報交換会(3回)に参加し、各団体の活動目的やニーズを把握することができました。また、図書館の機能についても知ってもらう機会となりました。		自己評価 B
課題	図書館の持つ機能が他の機能と連携することで、求められる役割がより果たせるような運用方法について、さらに具体的に協議する必要があります。		

番号	②	地域の知の拠点としての機能	年度工程
取組み内容	65	市の最新情報だけでなく、地域に関わるあらゆる資料を幅広く収集し提供する機関リポジトリ(知的生産物を保存・公開するための電子アーカイブシステム)を検討し、長浜市の歴史や文化をインターネット等を通じて発信します。	準備
今年度取組み状況	・長浜図書館移転時に更新する図書館コンピュータシステムベンダーと協議を行いました。 ・長浜図書館を中心に資料の収集をおこないました。		自己評価 C
課題	図書館コンピュータシステムの更新により資料の電子化・ウェブ公開が困難な状況となりました。代替となる方法について新たに検討が必要です。(No.11と同じ)		

番号	③	複合施設であることを生かした機能	年度工程
取組み内容	66	図書館と公民館が同じ施設内にあるメリットを生かし、市民の生涯学習をより効果的に支援することができる体制を整備します。	検討
	67	起業や就業、ビジネス拡大等の資料を集めたビジネス支援コーナーを設置します。	検討
	68	産業創造センターや商工会議所と連絡を密にし、相互の資料情報提供や講演会・相談会等の開催などについて協力体制を整備します。	検討
	69	市民のボランティア活動を支援できるよう、市民活動の支援と未来を担う人づくりに向けた市民活動支援センターや社会福祉協議会と連携を密にし、相互の資料情報提供や講演会・相談会等の開催などについて協力体制を整備します。	検討
今年度取組み状況	67:長浜図書館で設置している「働く気持ち応援コーナー」(ビジネスに関する資料)を新館移転後もさらに拡張・継続させるべく準備を進めました。 ・さざなみタウンの関係課協議をおこない、各機能の目的や体制について情報共有と意見交換をおこないました。		自己評価
課題	それぞれの持つ機能をどのように連携するとより効果的に生涯学習支援やビジネス支援・市民活動支援が可能か、さらに具体的に協議を進める必要があります。		

2-I-2に対する図書館協議会からの意見			
①市民が交流し活動を広げる機能	B	新長浜図書館で具体的な動きとなるように。	
②地域の知の拠点としての機能	C	せっかく新長浜図書館もできるのに新システムを使用する期間、蓄積した情報の活用、新しい情報の作成ができないことは大きな課題である。予算のこともあるが、別の手立てがないか検討してほしい。	
③複合施設であることを生かした機能	※	十分な検討をするように。	

II. 計画推進のための管理運営体制

平成30年度

1. 運営方法

番号	①	管理運営主体	年度工程
取組み内容	70	図書館の管理運営主体について、本市にもっともふさわしい形態について図書館協議会などで協議します。	実施
今年度取組み状況		図書館協議会への諮問のなかで協議いただき、答申をいただきました。	自己評価 A
課題		答申の内容を生かし、さらに具現化していく必要があります。	

番号	②	開館日・開館時間	年度工程
取組み内容	71	中央図書館の開館に合わせ、もっとも効果的で市民が利用しやすい開館日・開館時間となるように見直し、条例の改正などをおこないます。	実施
今年度取組み状況		図書館協議会の意見を聴きながら、さざなみタウン全体の管理を考慮し、休館日や開館時間を設定し、条例改正の準備を進めました。	自己評価 B
課題		令和元年6月議会で条例改正の上程を予定していますが、あわせて、変更に伴う混乱が生じないように、市民への周知を丁寧におこなう必要があります。また、新館移転後も、その後の全館の利用状況や利用動向調査を踏まえ、さらに検討を重ねる必要があります。 ※令和元年6月議会に上程し可決されました。	

番号	③	職員の配置と資質向上	年度工程
取組み内容	72	全館の効果的な職員体制を整備します。	検討
	73	司書の育成や専門スキル習得・向上のための研修を計画的におこないます。	実施
今年度取組み状況		72: 新館オープン後の配置を見据えた職員体制を協議し、予算要求に反映しました。 73: 県立図書館などが企画する研修に担当者等が参加するとともに、職員への伝達研修などによって、全体のスキルアップを図りました。	自己評価 B
課題		長期的な視点で、市域全体でのサービス向上につながるような人員体制と研修内容を検討する必要があります。	

2-Ⅱ-1に対する図書館協議会からの意見		
①管理運営主体	A	計画に従って進められている。
②開館日・開館時間	B	計画に従って進められている。
③職員の配置と資質向上	B	73は継続的にしっかりとできている。

2. 資料管理

番号	①	資料の整理および管理	年度工程
取組み内容	74	全館の蔵書規模と構成を見直し、効果的な資料収集・提供と適正な資料管理を計画的におこないます。	実施
	75	中央図書館の開館に合わせ、中央図書館の開架の充実に必要な資料の整備を計画的に進めます。	実施
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ICタグを貼付する資料の選別を全館で継続実施し、図書ラベルの統一と修正を進めました。 ・新館用としてYA資料と参考資料を計画的に購入しました。 		自己評価 A
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新館の書架にあわせ長浜図書館の蔵書構成と排架を計画的に進める必要があります。 ・各館から長浜図書館への移管資料に計画的にICタグを貼付する必要があります。 		

番号	②	資料配送システムの充実	年度工程
取組み内容	76	資料配送システムは、現在の週3回から週5回の配送に増便します。	準備
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・委託業者を選定し、館室間配送を週3回から週4回に増便しました。 ・小中学校38校の学級巡回文庫配送業務を定期的に業務委託しました。 ・配送業務を民間委託することにより、安定的な物流業務をおこなうことができました。 		自己評価 B
課題	なるべく早い段階から週5便を実施できるよう、手続きを進める必要があります。		

2-Ⅱ-2に対する図書館協議会からの意見			
①資料の整理および管理	B	資料管理は進んだが、新館のオープンに向けてもう少し資料費の確保ができるようになった。	
②資料配送システムの充実	B	計画に従って進められている。	

3. 機械化・自動化の推進

番号	①	コンピュータシステムの更新	年度工程
取組み内容	77	ホームページは、よりわかりやすく利用しやすい内容となるよう、システム更新時にリニューアルします。	
	78	インターネットを利用した検索や予約のシステムには、メールマガジン等の新しい機能を追加します。	
今年度取組み状況	図書館ホームページに定期的にお知らせと行事を掲載しました。個人ページでは利用者自身の希望に応じて読書履歴を残せるようにしました。		自己評価 A
課題	インターネットを使った情報発信において、SNSの使用も検討する必要があります。(No.47と関連)		

番号	②	機械化・自動化の推進	年度工程
取組み内容	79	自動貸出・返却装置、自動予約棚、自動化書庫、BDS等の導入を進めます。	実施
	80	機械化・自動化促進のため、ICタグの貼付を進めます。	実施
	81	インターネットを利用した蔵書検索や資料予約、メールによる予約連絡の利用者を増やすため、周知を進めます。	実施
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータシステム入替の入札を実施しました。新館で自動貸出・返却装置、自動予約棚、BDSを導入します。また高月館で自動貸出装置を導入します。 ・平成31年2月からICタグ貼付作業を開始しました。 ・折に触れて広報ながはまや図書館だより、行政内掲示板等でインターネットサービスの利点を周知しました。 		自己評価 A
課題	新館開館時の実際の稼動に向けて、さらに調整が必要です。		

2-Ⅱ-3に対する図書館協議会からの意見		
①コンピュータシステムの更新	A	新館開館にあわせた稼動に向け、計画的に準備が進められている。
②機械化・自動化の推進	A	新館開館にあわせた稼動に向け、計画的に準備が進められている。

3 サービス指標の設定と評価

平成 30 年度

I.数値目標と評価方法

番号	数値目標と評価方法	年度工程
取組み内容	82 年度ごとの具体的な取組み目標を設定し、達成状況について項目ごとの自己評価をおこないません。	実施
	83 目標の達成状況を検証するため、利用者アンケートや市民懇談会等をおこないません。	実施
	84 年度ごとに、図書館協議会から意見を聴取します。	実施
	85 年度ごとの実績と併せ、自己評価および図書館協議会からの意見を事業年報で公表します。	実施
今年度取組み状況	平成29年度の自己評価をおこない、それを元に図書館協議会から意見を聴取し外部評価とし、それらをまとめて「長浜市図書館基本計画実施プラン平成29年度評価書」として公表しました。 また、事業実績は「長浜市立図書館事業報告書平成29年度版」として公表しました。	自己評価
		B
課題	早い時期に外部評価と内部評価をとりまとめ、予算計画に生かす必要があります。	

3に対する図書館協議会からの意見		
数値目標と評価方法	B	評価を次年度事業や予算編成に生かすこと。

長浜市図書館基本計画に掲げる数値目標

サービス指標			実績		目標
			平成25年度	平成30年度	平成31年度
①	実利用者率(市民)	%	15.8	13.5	25.0
②	個人貸出密度	冊	8.6	7.6	10.8
③	来館者数 (長浜図書館・中央図書館)	人	138,633	128,420	350,000
④	個人貸出冊数(全館)	冊	1,051,471	894,543	1,300,000
⑤	予約・リクエスト件数(全館)	件	144,355	153,583	165,000
⑥	レファレンス件数(全館)	件	270	246	350
⑦	市民による展示・発表件数(全館) (おはなし会を含む)	件	78	88	100
⑧	ボランティア活動者のべ人数(全館)	人	1,021	793	1,200

① 実利用者率 1年間に図書館の貸出を利用した市民の割合

② 貸出密度 1年間の市民1人あたりの貸出冊数